

ゆりかご



産科再開後100例目の出産

目次

スタッフ紹介（小児科・産婦人科）	2～3
各種チームの紹介	3
●医療安全管理委員会	
トピックス	4～5
●中津市民病院健康教室を始めました	
●診療連携集談会を行っています	
●平成23年中津市民病院緩和ケア研修会を行いました	
●平成23年度中津市民病院開院記念講演会を開催しました	
●地域がん診療連携拠点病院に指定されました	
新任医師紹介	6
院内研修会・研修報告会	7
新病院建設進捗状況	8



三光コスモス園（平成22年度）

小児科の紹介です

小児科は医師8名、診療部小児科付け保健師1名の計9名のスタッフで構成されています。歴代院長・歴代事務長の多大な後押しもあり、(開設順に)循環器・神経・腎臓・内分泌の「専門外来」を招聘医師(時に常勤医のみの場合あり)をお願いする事により、幅広いかつ専門的診療分野にも対応しております。

施設認定としまして、認定順に①日本周産期・新生児医学会：周産期新生児専門医の研修補完施設、②日本小児科学会：小児科専門医研修施設、③日本小児循環器学会：小児循環器専門医研修施設群の認定を受けています。国立→市立病院移譲時の常勤小児科医4名の時代を思うと「隔世の感」すら感じますが、現状で満足する事なく、今後その他の分野(神経・腎臓など)の専門施設取得認定に努力するつもりです。

5年間の患者数の推移を下表に示します。最近の特徴として…、①年間平均1,409名の入院児のうち3割弱が夜間・休日の入院である、②外来患者さんに至っては、年間平均28,352名の受診児のうち3割強が夜間・休日の受診でかつ増加傾向にある、と言えます。

平成18年に中津市・宇佐市・豊前築上各医師会の先生方のご協力の下、「地域連携小児夜間・休日診療」の体制構築ができました。当初は3名の小児科医師のみの参加でしたが、「自分も是非協力したい。」と大変大変ありがたい申し出をして頂き、今年度から計5名の先生方にご協力頂いています。また一方で、昨年度より毎週水曜日20時～翌朝8時は、福岡大学病院・福岡大学筑紫病院小児科医師による、応援当直出務が行われるようになりました。このような地域の先生方のご理解・ご協力をもっともって頂いて、勤務医の疲弊→バーン・アウトが、決していつ起きてもおかしくはない当地・当院で、小児科がモデル・ケースになって内科・外科系当直にも広がっていけばと願って止みません。

当広報誌Vol.2に掲載されましたように、昨年12月1日付で大分県より「地域周産期母子医療センター」の認定を受けました。そして来年度はいよいよ新病院完成と同時に、別棟の小児救急センターが開設されます。一次救急に関しては、マンパワーの面で、益々のご協力が必要です。どうぞ宜しくお願い致します。

市民病院になって丸11年が過ぎ、12年目に入りました。外科の紹介にあります通り、「質の高い医療と患者さんに優しい医療を提供する事を常に念頭に置き、地域医療の発展に尽力」するのはもちろん小児科も全く同じです。但し理想はもっとももっと高く、「医師として」のみならず、「人間として」「一社会人として」、手本になれる人材育成を新しいこれからの10年の「診療部小児科」としての目標の柱として行きたいと思えます。その為には、まずは、時間を守る、規則を守る、約束を守る、という基本中の基本は言うまでもありません。そんな当然できて当たり前の事だけにあらず、理想は高く・大きく、自分の小児科専門分野以外の領域についても積極的な研鑽、組織の一員としての診療活動以外の分野での貢献も重要な役割であると認識し、自分を含めて肝に銘じて精進していく・してもらおう所存です。今後とも宜しくお願い致します。

小児科患者数の年度別推移

単位：人

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平均
入院患者延数	1,166	1,520	1,567	1,352	1,440	1,409
(内休日・夜間緊急入院患者数)	(349)	(395)	(432)	(354)	(401)	(386)
外来患者延数	26,470	26,929	27,585	31,377	29,401	28,352
(内休日・夜間緊急外来患者数)	(7,251)	(8,680)	(7,940)	(10,868)	(9,021)	(8,752)

産婦人科の紹介です

中津市民病院産婦人科は県北でハイリスク妊娠（母体または胎児が重篤な病気を発症したり死亡する可能性が通常より高い、または、出産の前または後に何らかの合併症が起こる可能性が通常より高い妊娠）を取り扱うことのできる唯一の施設として平成18年まで年間200件ほどの分娩を取り扱っていました。しかし、平成19年に休止となり、ハイリスク妊娠の多くが別府、大分、北九州に搬送されることになりました。そんな中、平成21年、大分大学、大分県産婦人科医会、中津市、大分県が協力し、中津市民病院産婦人科が再開され、平成22年7月からは分娩の取り扱いも行えるようになりました。今年の6月には再開後100例目の分娩が行われるにいたりしました。



現在、中津市民病院産婦人科には5名の産婦人科医がいます。これは大分県内では大分大学、大分県立病院に次いで3番目の規模です。松本治伸部長は悪性腫瘍、内分泌などを専門として婦人科一般を広く担当しています。古川雄一医長は不妊・内分泌を中心に幅広く患者さんの診療にあたっています。岩永直子医長は大分県で唯一の周産期・母体専門医の資格を持つ産科の専門家です。佐藤新平医師は若く情熱にあふれた、熱いエネルギー満点の診療をしてくれます。そして私（吉松）は彼らが十分な力を発揮できる環境を整えながら、自分の専門である周産期医療を中心に診療に当たっています。

分娩のほとんどには複数の産婦人科医が立ち会います（実はこれほど大切なことなんですが、産科医不足の折、なかなか実現できないことのひとつです）。新生児に問題がある場合には小児科医立会いのもとで分娩が行え、迅速な対応ができます。昨年には地域周産母子センターの指定を受け、来年には新病院に移転します。さらに拡充した周産期医療が行える予定です。良質な医療が提供できるようにスタッフの意欲はますます高まっています。

各種チームの紹介

“医療安全管理委員会”です

当院では、平成13年より“病院医療安全管理委員会”を設置し、院内の医療安全に関する活動を行なっています。

今年4月からは新しくSafe Masterを導入し、院内の全職員からのヒヤリハットなどを収集できるようにしました。

今後は、全職員を対象にさまざまな医療安全に関する研修が出来るよう活動を行なっていきたいと考えています。

他の医療機関の皆さまと一緒に研修が出来ればいいですね。



職員考案の
医療安全ワッペンです。



毎月第一金曜日には、院内の安全回診が行われます。

日高副院長（委員長）や安全回診メンバーの嬉しい目が光ります!!!



●中津市民病院健康教室を始めました●

地域住民の健康的な生活の維持のため、がんをはじめとする病気の予防・早期発見・治療に関する正しい知識を持てるよう支援することを目的に健康教室を開催しました。

8月27日(土)に行なわれた第1回健康教室は、当院がんセンター長・呼吸器外科部長の福山康朗医師が「肺がんの常識 うそ!ほんと!」と題した講演を行い、県内外から71人の参加がありました。

肺がんの検診や治療などに関して、多くの人が「常識だ」と考えがちなことを例に挙げながら解説していきました。また、タバコと肺がんの関係にもふれました。講演終了後には、熱心なご質問をたくさんいただきました。

本年度、計3回開催し、来年度からは年4回程度実施予定になっています。次回は、11月に開催予定です。多くの方のご参加をお待ちしています。



●診療連携集談会を行っています●

中津市民病院では、毎月第4金曜日、診療連携集談会を開催しています。毎回、3~4題の症例報告があり、院内外からの多数の出席者による活発な意見交換が行われています。

平成23年8月に行われた第113回診療連携集談会では、大分大学医学部地域医療・産婦人科教授(産婦人科特任部長)吉松淳医師が「最終月経と妊娠」、当院研修医の倉光正太郎医師が「先天性総胆管拡張症・膵胆管合流異常に胆嚢癌を合併した1例」、当院小児外科佐々木理人医師が「膿瘍形成を伴う穿孔性虫垂炎に対してInterval appendectomyを施行した1例」を報告しました。

今後とも定期に開催しますので、多数の先生方のご出席をお願いします。

●平成23年中津市民病院緩和ケア研修会を行いました●

平成23年7月23日(土)、24日(日)の2日間に亘り、医師等を対象とした緩和ケア研修会を開催しました。

がん対策基本法に基づくがん対策推進基本計画(平成19年6月15日閣議決定)において、「すべてのがん診療に携わる医師が研修等により、緩和ケアについての基本的な知識・技能を習得する」ことが求められています。中津市民病院が本年4月、地域がん診療連携拠点病院の指定を受けたことから、厚生労働省の開催指針に沿った緩和ケア研修会を開催いたしました。

当院副院長 横田昌樹医師、がんセンター長兼呼吸器外科部長 福山康朗医師をはじめ、院外から医師、臨床心理士を講師にお迎えし、がん性疼痛の機序、がん医療におけるコミュニケーション技術、全人的な緩和ケアの要点などについて、講義やグループワーク、ロールプレイを行いました。



研修会終了後には、厚生労働省健康局長名の修了証書が池田正仁院長から手渡されました。

受講者からは、明日からの診療に役立つと高い評価をいただきました。

次回は、平成24年2月の開催予定です。ふるってご参加ください。



●平成23年度中津市民病院開院記念講演会を開催しました

平成23年7月2日、当院会議室にて平成23年度開院記念講演会が開催されました。猛暑の日々、参加者の減少が心配されましたが、今回は初めて小児科のOBも加わるなど、非常に盛大に催されました。終了後はインド料理店で懇親会を行い、大いに盛り上がりました。



～平成23年度開院記念講演会 演者一覧～

演者	演題
松尾 進 (国立病院機構九州医療センター)	九州医療センターの感想
植崎 亮 (九州大学医学部付属病院 小児科)	近況報告
吉田 大輔 (田川市立病院)	田川市立病院の現状
八坂 謙一郎 (健和会大手町病院)	コモンな感染症の臨床的疑問を解決する
久米 正純 (国立病院機構別府医療センター)	別府医療センターとは
太田 有美 (2階病棟看護師)	術後患者が自ら動こうと思う “きっかけとは”
横山 恵史香 (3階病棟看護師)	参加型母親学級及び 母乳相談室の取り組み
橋本 裕子 (4階病棟看護師)	入院患児の遊びの必要性 ～調査票の分析と今後の課題～
吉田 まつみ (外来看護師)	外来化学療法を受ける後期高齢者の 日常生活における悩みや対処についての現状
内匠 陽平 (研修医)	リンパ球性下垂体炎が疑われた一例
安永 浩平 (研修医)	周術期の血糖コントロールについて
古賀 絵梨奈 (研修医)	局所進行性直腸癌に対する 術前化学放射線療法について
倉光 正太郎 (研修医)	腭腺扁平上皮癌の一例
堤 亮介 (研修医)	放射線と医療被曝
清永 恭弘 (研修医)	糖尿病治療の新しい夜明けに参加して

●地域がん診療連携拠点病院に指定されました

中津市民病院は平成23年4月1日、地域がん診療連携拠点病院に指定されました。

これは、あの福沢諭吉先生の創設した慶應義塾大学病院と同時であり、非常に名誉なことです。

手術療法、化学療法、放射線療法、緩和医療など、機器、スタッフの更なる充実を図り、当該地区におけるがん診療の中核施設として更なる発展を目指していく所存です。



地域がん 診療連携拠点病院

当院は平成23年4月より
地域がん診療連携拠点病院に指定されました。

がん対策は、平成19年4月に施行されたがん対策基本法の基本理念にのっとり推進されています。そのなかで、厚生労働省は、全国どこでも質の高いがん医療を提供することができるよう、がん診療連携拠点病院の整備を進めてきました。

地域がん診療連携拠点病院の役割

- ◆専門的ながん医療の提供
- ◆地域におけるがん診療連携協力
- ◆がん患者さんに対する相談支援及び情報提供

◆ご不明な点がございましたらお問い合わせください◆
中津市民病院 がん医療センター
TEL: 0979-22-2480(内線)

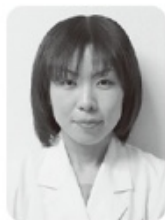
新任医師紹介

～今年度から当院に勤務する医師を紹介します。～



小児外科
佐々木 理人 (ささき たかと)
専門：小児外科

平成21年4月より中津市民病院の研修医として2年間を過ごさせていただき、研修を通じて多くのことを学び有意義な時間を過ごしました。今回、6月から小児外科医として着任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。



麻酔科
田原 里美 (たはら さとみ)
専門：麻酔科

7月より大分大学麻酔科より赴任いたしました。中津には祖父母が住んでおり、幼少期から遊びに来ることがありましたので親しみを感じています。麻酔科医として患者さん第一・安全第一で一生涯頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



研修医（1年次）基幹型
安永 浩平 (やすなが こうへい)

九州大学医学部出身の安永浩平です。上級医の指導の下、一生涯命診療していきます。



研修医（1年次）基幹型
古賀 絵梨奈 (こが えりな)

3月に九州大学を卒業し、4月から研修医としてこの病院にまいりました。この病院の温かい雰囲気が好きです。まだまだ未熟なところはたくさんありますが、2年間の研修を通じて、大きく成長できるよう頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。



研修医（1年次）協力型
倉光 正太郎 (くらみつ しょうたろう)

研修医一年目の倉光といいます。学生の頃は空手で心身を鍛えました。体力には多少自信があります。現在、産婦人科を回っておりますが、ピンバシ鍛えられております。中津は初めてですが、よろしくお願いいたします。



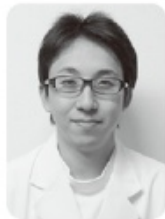
研修医（1年次）協力型
内匠 陽平 (たくみ ようへい)

今年大分大学を卒業し、4月から研修医一年目としてお世話になっております内匠（たくみ）陽平と申します。4月よりはや6ヶ月経ち、多くの方に支えられ有意義な時間を過ごさせてもらっています。どうぞよろしくお願いいたします。



研修医（1年次）協力型
堤 亮介 (つつみ りょうすけ)

はじめまして、研修医一年目の堤です。まだ右も左もわからない未熟者ですが精一杯努力していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



研修医（1年次）協力型
清永 恭弘 (きよなが やすひろ)

研修医の清永恭弘と申します。小さい頃から色々とお世話になっていた中津市民病院で働けることに感謝しつつ、日々邁進しております。私はまだ国立病院だった頃、この病院で生まれました。その後も病弱であったため、肺炎で入院したこともありましたが、今思えば、私が医師を目指した原点もこの病院にあるような気がします。まだまだ慣れないところもありますが、若さで頑張っていきますので、よろしくお願いいたします。

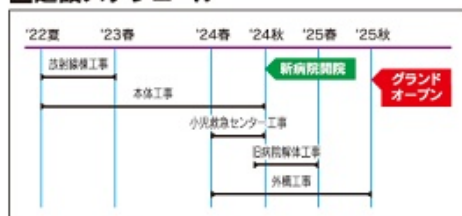


院内研修会・研修報告会

講演内容	日時	講師	
相談支援センター相談員基礎研修①、②	6月 2日	相談支援センター係長 相談員	平岡悟美 名女松望
第84回日本内分泌学会学術総会	6月 9日	内科医長	渡邊哲博
第54回日本糖尿病学会	6月16日	内科医師	坂井洋子
九州地区自治体病院栄養・調理部門研修会		薬剤師	前田優香
第121回ICD講習会	6月23日	栄養管理係長	小犬丸恭子
第68回九州連合産科婦人科学会		小児科部長	合志光史
第53回日本小児神経学会		産婦人科医長	古川雄一
第465回日本小児科学会福岡地方会例会		小児科医長	金海武志
医療現場における教育最前線eラーニング活用事例	7月14日	小児科医師	小野澤佳織
第28回日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会		5F病棟看護長	熊智子
第47回日本小児循環器学会総会・学術集会	7月21日	小児科医長	児玉隆志
日本糖尿病療養指導士 平成22年度認定更新者用講習会		小児科部長	合志光史
第26回日本静脈経腸栄養学会		栄養管理係長	小犬丸恭子
第23回肝胆膵外科科学会	7月28日	栄養管理係長	小犬丸恭子
第97回日本消化器病学会九州支部例会		薬剤師	富田珠美
The 11th Asian Congress of Pediatric Nephrology 2011		診療部長	岸原文明
第84回日本小児科学会大分地方会総会		外科医長	北川大
相談支援センター相談員基礎研修③	8月 4日	副院長	横田昌樹
第5回抗菌化学療法認定薬剤師講習会 第28回日本TDM学会・学術大会		小児科医長	寺町昌史
第14回日本脳低温療法学会	8月11日	小児科医師	伊藤創太郎
第114回日本小児科学会学術集会		小児科医長	寺町昌史
日本消化器病学会九州支部例会 日本消化器外科学会総会	8月25日	小児科医師	伊藤創太郎
第66回日本消化器外科学会総会		外科医長	廣石和章
日本リウマチ学会総会・学術集会 日本脳卒中学会総会	9月15日	診療部長	岸原文明
TNT福岡研修会	9月22日	内科医長	渡邊哲博
第20回母乳育児シンポジウム	9月29日	循環器内科部長	小路高史
第19回助産師のための母乳育児セミナー		3F病棟助産師	横山恵更香
日本放射線治療専門放射線技師認定教育セミナー		3F病棟助産師	井和丸、スミエ
		診療放射線副技師長	川村倫子
		主任診療放射線技師	遠藤洋和

新病院建設進捗状況

■建設スケジュール



※ 進捗状況は、完成まで毎回掲載します。



■本館南側遠景

■概要

構造：鉄筋コンクリート造（免震構造・一部耐震構造）

高さ：20.7m

階数：地上5階・塔屋1階

敷地面積：27,150㎡（第2駐車場除く）

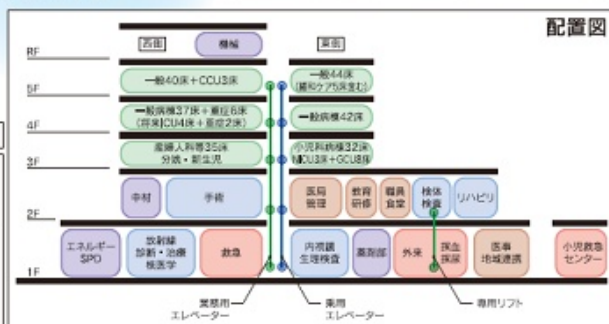
延床面積：17,974㎡

病床数：250床



構造等
規模

凡例	
	供給
	管理・厚生
	病棟
	診療
	外来



■本館北面外観（3階部分に着手）



■公務員宿舎（医師官舎）が完成しました。

発行／中津市立中津市民病院 編集／広報委員会
TEL：0979-22-2480【代表】 FAX：0979-24-3839【代表】